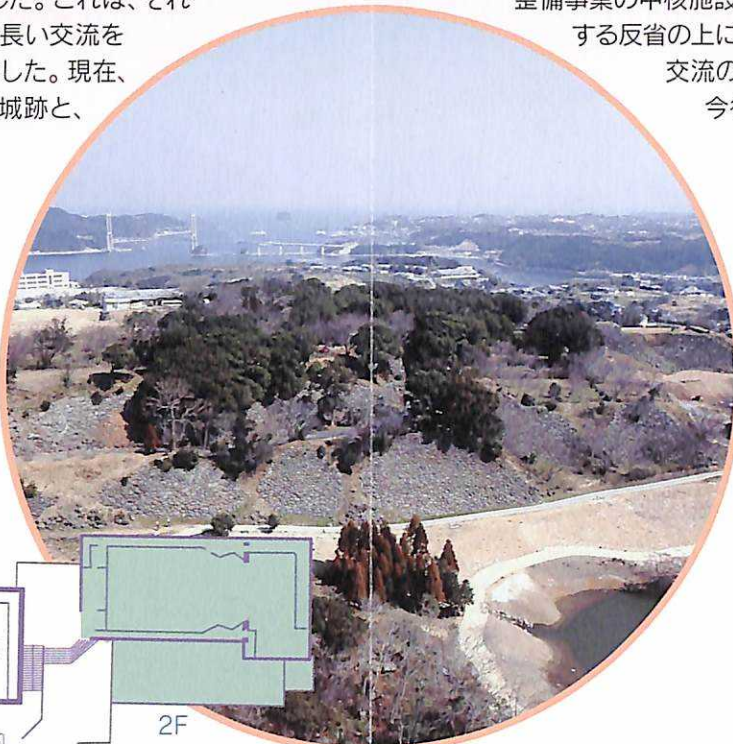


博物館のあらまし

中国・朝鮮半島侵略をもくろんだ豊臣秀吉は、この地に名護屋城を築いて出兵基地とし、文禄・慶長の役（壬辰・丁酉倭乱1592～98）を起こしました。これは、それまでの日本列島と朝鮮半島との長い交流を一時断絶させた不幸な出来事でした。現在、この戦争の舞台となった名護屋城跡と、参集した全国の大名の陣屋の



- 1F
 - 1. エントランスホール
 - 2. ホールロビー
 - 3. ホール（500席）
 - 4. ミニシアター
 - 5. ビデオコーナー
 - 6. 図書閲覧室
 - 7. 事務室
 - 8. 研究室
- 2F
 - 9. 展示室ロビー
 - 10. 常設展示室
 - 11. 休憩コーナー
 - 12. 企画展示室
- 屋外
 - 13. 木下延俊陣跡



跡は「名護屋城跡並びに陣跡」として国の特別史跡に指定されています。名護屋城博物館は、この広大な遺跡の保存整備事業の中核施設となるとともに、過去の史実に対する反省の上に立って、日本列島と朝鮮半島との交流の歴史を調査・研究・展示紹介し、今後の友好・交流の推進拠点となることを目指しています。

企画展示室



ミニシアター



図書閲覧室 ビデオコーナー



ホール



<活動内容>

当博物館では、(1) 特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」の調査・保存・活用、(2) 城郭と「日本列島と朝鮮半島との交流史」に関する資料の収集・保管・調査・研究・展示・普及、(3) 交流史研究を主体とする国際学術・文化交流事業を中心的な活動の内容としています。

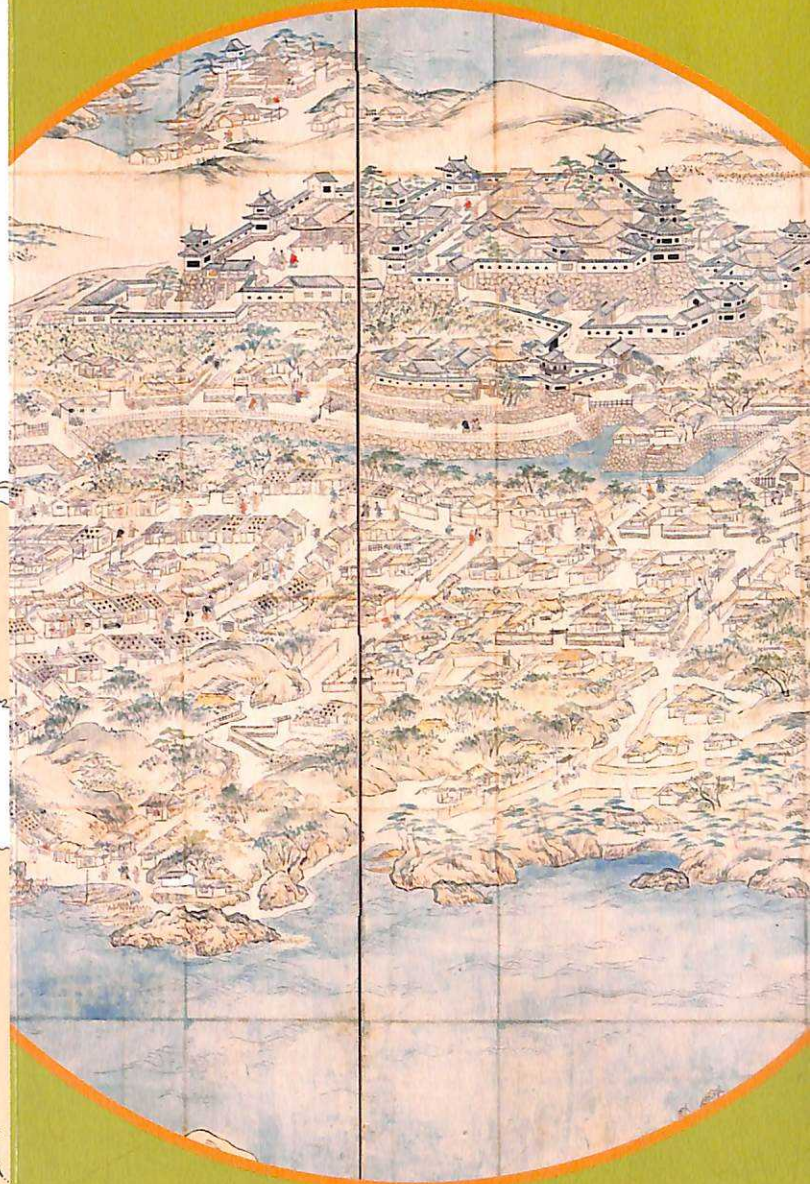


利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 月曜日（休日の場合は翌日）、年末
- 入館料 無料
※特別企画展開催中は有料
- 交通 (バス) 唐津駅もしくは唐津大手口発「名護屋城博物館方面行」で「名護屋城博物館入口」停留所下車、徒歩5分
(車) 長崎自動車道多久インターから60分
JR唐津駅から約30分
- 所在地 〒847-0401 佐賀県唐津市鎮西町名護屋1931-3
TEL (0955) 82-4905・FAX (0955) 82-5664
URL <http://saga-museum.jp/nagoya/>
E-mail nagoyajouhakubutsukan@pref.saga.lg.jp



佐賀県立名護屋城博物館 Saga Prefectural Nagoya Castle Museum



展示のあらまし

常設展示は「日本列島と朝鮮半島との交流史」を主題として掲げ、双方の友好関係を一時断絶させた文禄・慶長の役（壬辰・丁酉倭乱1592～98）と、舞台となった特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」について、その歴史的位置付けを明らかにすることを主要な目的としています。この主旨から、室内を「名護屋城以前」「歴史の中の名護屋城」「名護屋城以後」「特別史跡名護屋城跡並びに陣跡」の4コーナーにわけて展示を行っています。

原始・古代から続いてきた交流の歴史と、その中での不幸な戦争の意味を知ることによって、将来の交流・友好の指針を見いだしていただければ幸いです。

① 名護屋城以前

原始・古代から中世におよぶ日本列島と朝鮮半島との交流の歴史や、日本文化の形成と発展に多大な影響を与えた外来文化を示す考古・文献・美術・工芸資料を展示しています。



高麗金板経



金銅如来立像

② 歴史の中の名護屋城

文禄・慶長の役（壬辰・丁酉倭乱）の実態を語る資料を展示し、日韓両国の立場からこの戦争を明らかにしていきます。また、この時築かれた名護屋城と城下町のありさまや、そこに生きた「桃山の世」の人々の生活を示す資料も展示しています。



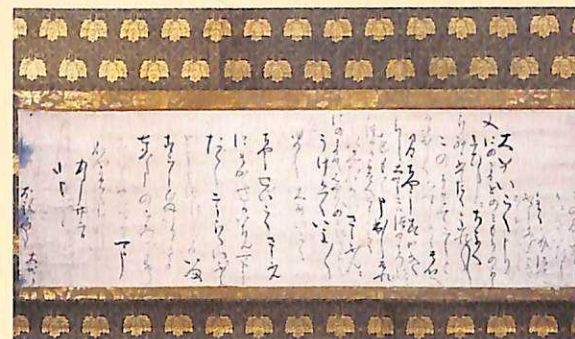
綴織鳥獣文陣羽織（複製）



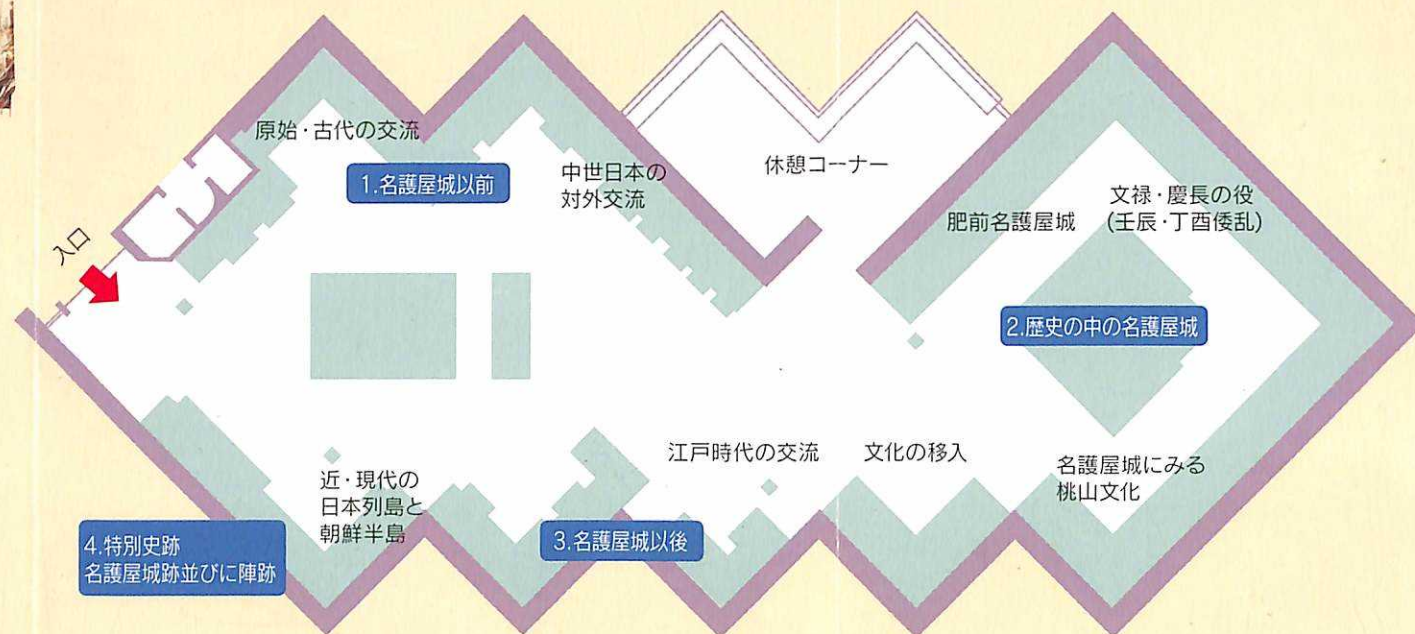
豊臣秀吉画像



肥前名護屋城図屏風



北政所宛豊臣秀吉自筆書状



③ 名護屋城以後

江戸時代の日朝国交回復以後、近現代にいたるまでの日本列島と朝鮮半島との関わりを示す資料を展示し、将来の交流の展望を導き出すきっかけとします。



朝鮮人参



朝鮮通信使行列絵巻



植民地時代の教科書

④ 特別史跡

名護屋城跡並びに陣跡

名護屋城跡は、現在わが国に残る桃山時代の城郭の中では、最大級の城跡であるという点でも、極めて貴重な文化財の一つです。この名護屋城と、全国から集まった諸大名の陣跡の発掘調査成果や環境整備の状況について、出土遺物などを通じて紹介しています。



名護屋城跡山里丸茶室遺構



青花大皿（堀秀治陣跡出土）



金箔巴文軒丸瓦
（名護屋城跡天守台出土）



整備終了後の名護屋城跡山里口